

第3部 諸地域世界の結合と変容

7 アジア諸地域世界の繁栄と成熟

4 イスラーム諸国家の繁栄（教科書 P.124～127）

① 多民族国家の共存 [p.124]

・14世紀～ モンゴル帝国崩壊後

西南アジアに4大帝国が誕生

〈特徴〉

・トルコ・モンゴル系

・君主の権力が強大

・諸民族・宗派の共存がはかれる

→新たなイスラーム文化が展開

② オスマン帝国の発展 [p.124]

[] (1299～1922年)

・14世紀後半 アナトリアからバルカン半島に進出

→セルビア、ボスニアなどに領土拡大

〈[]〉

・ビザンツ帝国の都コンスタンティノープルを征服、遷都する（1453年）

→イスタンブルとよばれる

〈[]〉

・マムルーク朝を滅ぼす

→エジプト・シリア・アラビア半島獲得

→スルタン＝聖都の保護者となる

〈[]〉

・ハンガリーを支配し、[]（1529年）

・地中海、北アフリカに勢力を拡大

☆一連の征服活動で三大陸にまたがる大帝国を実現

・[]を中心に東西交易が活発化、政府も貿易を保護奨励

→西欧諸国に恩恵の特権を授与する条約（〔 〕）を結ぶ

③ 常備軍と官僚 [p. 125]

・軍・法・行政により帝国の一体性を維持

〈軍〉 トルコ系騎士とバルカン出身の常備軍

〈法〉 イスラーム法と地域の慣習の調和

〈行政〉 大臣：国政担当

〔 〕・〔 〕：行政遂行

異民族出身者も高官に登用

・多民族共存をめざす

→〔 〕・〔 〕に宗派ごとに自治をみとめる

④ 宮廷と都市 [p. 125]

・都市…経済・文化の中心

→スルタン・高官が宗教施設・商業施設を寄進

〔 〕や街区が行政や自治の単位に

・トルコ語で歴史書・文学書があらわされる

・トルコ式の本屋が各地に建築される

ドーム（本屋根）と尖塔が特徴

・絵画（ミニアチュール）

⑤ イランのサファヴィー朝 [p. 126]

〔 〕（1501～1736年）

・神秘主義教団の教主イスマーイールが建国

・国王はシャーを名のる

・シーア派（〔 〕）を国教とする

・オスマン帝国・ムガル帝国と交戦

・軍事＝トルコ系遊牧民 行政＝イラン人官僚

・〔 〕は〔 〕に遷都

→「世界の半分」といわれるほど繁栄

⑥ [] (1370~1507年) [p. 126]

- ・都：[]
- ・トルコ系・モンゴル系遊牧民の軍事力とイラン系定住民の経済力を基盤とする
- ・ウラマーや [] を保護
〈[]〉
- ・チャガタイ・ハン国分裂後の中央アジアを統一
- ・アンカラの戦いでオスマン軍をやぶる (1402年)
→スルタンを捕虜に
- ・明への遠征の途上で病死

⑦ インドのムガル帝国 [p. 126]

- [] (1526~1858年)
〈[]〉
- ・ティムールの子孫
- ・アフガニスタンに進出してムガル帝国を建国
〈[]〉 第3代 新都：アグラ
- ・領土を北インドからデカンに拡大
- ・検地を実施して地租を確定
- ・軍人・官僚に地位に応じて []
- ・「万民との平和」のため異教徒への人頭税を廃止し、ヒンドゥー教徒を登用
〈シャー・ジャハーン〉
- ・最盛期
- ・愛妃の廟 [] 建設
〈[]〉 (17世紀後半)
- ・ほぼ全インドを支配
- ・イスラームに基づく国家樹立をめざす
→人頭税を復活し、ヒンドゥー寺院を破壊
→ヒンドゥー諸侯、シク教徒が反乱
- ・戦争や乱費で国家財政が破綻

☆17世紀までは世界の経済大国

胡椒, インディゴ, 硝石, 絹織物などの輸出で大量の金銀を獲得

⑧ 文化と社会 [p. 127]

・イラン～中央アジア～インドの3帝国

ペルシア語やトルコ語が共通の言語

・ムガル帝国の言語

トルコ語+宮廷の公用語([], ウルドゥー語)

・ムスリムと [] は社会・文化の面で共存・交流

→イスラームの影響を受けた [] がヒンドゥー教改革運動から

[] をおこす